



津波避難用の人工高台「家島命山」
＝大分市家島（大分市提供）



大分市の津波避難用の人工高台(命山)

施設は臨海工業地帯近くの家島緑地内(市有地)に位置。土を盛り、山状に固めている。地面からの高さは約8層。三佐に続き、市内2カ所目の命山となる。

【大分】大分市は、同市家島に津波避難用の人工高台「家島命山」(標高10層)を整備した。大野川河口付近の同地域には緊急避難に適したビルが少なく、津波発生に気付くのが遅れた地元住民らの利用を想定する。6日は現地で完成記念式典があった。

大分市 家島地区に避難高台 南海トラフの津波に対応

市防災危機管理課によると、頂上部の避難スペース(約400平方メートル)は周辺の人口や緑地(公園)利用者数を踏まえ、400人が逃げ込める面積を確保した。防災資材を収納できるベンチや、照明、テント設置が可能などよけを設置。防災倉庫もあり、飲料水や災害用トイレなどを備蓄している。階段かスロープで上る。

家島地区は標高約2〜4層。南海トラフ地震発生時は最大3・6層の津波が到来すると考えられる。一方、地区には高さなどの条件を満たした避難ビルが1軒しかないという。市は2019年に地元住民側からの要望書を受け、

市防災危機管理課による、人工高台の整備を検討。21年に予算化し、22年8月〜23年10月にかけて工事をした。工事費(総事業費)は約2億1500万円。

6日の式典には、関係者約60人が出席。足立信也市長が「非常時は一刻を争う。日頃の訓練が重要になる」、「家島自治委員の阿部邦彦さん(76)が「夢見た施設が出来上がり、自然災害に格段に強い地域になった」とあいさつした。代表者6人がテープカット。式後の見学会で、市職員が機能を説明した。

(渡辺久典)



記事をよく読んで、問①～④に答えましょう。問④は自分で考えてみましょう。

〔問①〕 標高10メートルの人工高台「家島命山」は何川の河口にありますか？

答え 【 _____ 】

〔問②〕 頂上部の避難スペースには何が設置されていますか？

答え 【 _____
_____ 】

〔問③〕 南海トラフ地震が発生すると家島地区には最大何メートルの津波が到来しますか？

答え 【 _____ 】

〔問④〕 南海トラフ地震に備えて、普段からどのように心がけたらいいですか。
考えてみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....